

## 平成22年年頭のご挨拶

新年 明けましておめでとうございます。

平素より当協会にお寄せいただいております皆様方のご協力と温かいご支援に対し厚く御礼を申し上げます。

一昨年秋の米国に端を発した金融危機が、一瞬の内に世界を覆い、我々は経済のグローバル化の進展を大変厳しい形で実感させられる事になりました。

去年は、特に前半は、世界の景気悪化が加速したことから、我が国の生産や販売が従来になく大きく落ち込む結果となり、我々は、その対策に腐心するといった非常に厳しい一年でありました。

此処に新年を迎え、この厳しい事業環境から未だ完全には脱しきれていないわけで、今後も厳しい状況が続くものと観ております。

本年は、特に前半は、景気回復の兆しへの期待感と二番底への警戒感とのいわば綱引きのもとで、我々は、難しい事業運営の舵取りを行わなければならない年となると思われま

す。世界各国が協調的に大規模な財政・金融政策を積極的に実施していることから、アジアをはじめとして世界経済は、昨年後半には、ある程度の回復がみられましたが、政府支援をテコにした経済回復から、一刻も早く景気を民需主導の安定的な回復軌道に乗せなくては本格的回復にはなりません。

このような状況の中で、当協会が集計しております「平成21年1月から10月までのエンジンの生産、輸出実績」を見てみますと、生産は、ディーゼルエンジンが約 59.2 万台（前年同期比 42.7%）、金額 1434.3 億円（前年同期比 44.7%）、ガソリンエンジンが約 328.5 万台（前年同期比 67.4%）、金額 618.8 億円（前年同期比 60.7%）であります。

輸出は、ディーゼルエンジンが約 29.4 万台（前年同期比 41.6%）、ガソリンエンジン 165.9 万台（前年同期比 60.3%）となっております。

全体としては、生産・輸出共に前年を大きく下回っていること、また、輸出の減少が生産に比べ比率的に大きくなっていることが特長としてあげられます。

これは、エンジン需要に影響の大きい住宅投資や鉱工業生産投資の回復の遅れなど日欧米の需要の回復力の弱さを反映していること、また、急激な景気後退・需要の大きな減少に対して、我々企業が取れる重要方策が、更なるコスト低減をすること以外では、在庫・生産調整であることを示しているものと思われま



(社) 日本陸用内燃機関協会  
会長 林 守也

しかし、環境と経済との両立の観点から地球温暖化にも寄与する排ガス対応エンジンの開発、とりわけ欧米での 2011 年開始の所謂「第 4 次排ガス対応エンジン開発」は、エンジン業界の将来の成長への布石となるものと思っております。そして、今年は、2011 年の導入に向かつての実質上の最終的な詰めとなる重要な年と見ております。日本のエンジン業界が、その技術力で世界のリーダーシップを確立するチャンスであります。また、日本企業の活力を最大限活用しながら世界の有害排出ガスの排出量の削減に貢献できるチャンスでもあります。

これからの一層厳しい競争に打ち勝つ為に、従来以上に海外での生産移転が促進されることも予想されます。また、日米欧の市場が停滞する中で、我々日本企業にとっても新興国での市場拡大の期待は大きいわけですが、エネルギー効率が相対的に低い他国への生産移転や市場浸透によりグローバルな地球温暖化の防止に役立てれば、エンジン事業に携わる者として大変な喜びでもあります。

環境とエンジン、グローバル化とエンジンは、我々の企業業績に影響を及ぼすばかりでなく、社会へ貢献するものと思っております。

そのような活動の一つとしての当協会が実施しております「小型汎用エンジンの排出ガス自主規制制度」は、皆様のご協力により開始から 7 年目になり、各方面からも評価をいただけるようになりました。厚く御礼申し上げます。

一方、バイオエネルギー・ハイブリッド技術・バッテリー技術の進化そして新政権による地球温暖化への取組み宣言など我々を取り巻く事業環境や市場構造も大きく変化しつつあるように見えます。

従い、足もとの対策をすると共に、イノベーション（新技術開発）の推進、グローバル化のもとでの競争力強化に資する各種の取り組みを行い、将来の成長に向けて、新たな中長期的成長モデルの確立を行うことが業界の課題でもあります。

業界が、着実に前進を続け、持続的な成長への回帰を確かなものとするために、引き続き、協会メンバー各社・皆様の一層のご活躍と御健勝を祈願いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。